関西広域連合議会 11月臨時会 一般質問

デジタル化の推進について

令和7年3月関西広域連合議会定例会においてもデジタル化の推進について質問したが、あれから約9か月が経過したので状況等について伺う。

Q 令和7年3月定例会での「関西広域データ利活用　官民研究会」に関する質問に対し、連合長から「生成AIを活用したデータ整理の実証実験」や「モデルケース創出」に取組むとの答弁があった。その後、同年8月7日に本年度第1回の研究会が開催されたが、設立から約2年が経過する中、企業提案などを踏まえた具体的な成果はどうなっているか。

A 三日月広域連合長　関西広域データ利活用官民研究会では、昨年度から取り組んでいる行政課題解決のモデルケース創出の一環として、今年度は観光分野に注力しました。具体的には、企業との連携により生成AIを活用して観光イベント情報を効率的にデータ整備する実証実験を行い、その成果を関西圏域の各自治体と共有しました。また、9月には大阪府と共同でセミナーを開催し、データ連携基盤「ORDEN」を活用したAI観光案内の実証成果を報告することで、基盤を広域で共同利用することの意義やメリットについて産学官の参加者と知見を深めました。

Q 令和7年3月定例会にて、関西広域連合のオープンデータカタログサイトについて、掲載データセットが実質2件しかない現状を指摘し、改善を提案したところ、連合長からは整備・更新に努める旨の答弁があったが、その後の進捗は。現状を踏まえ、前述の研究会との連動も含め、改めて具体的な運用方針についても。

A 三日月広域連合長　オープンデータカタログサイトについては、国の標準に基づき既存データの更新を進めています。今後の拡充にあたっては、官民研究会の活動を通じて民間ニーズを確認しながら、さらなる公開を目指します。現在は構成団体間で公開状況に差があるため、まずは自身の担当である「広域環境保全分野」から先行して有用なデータの整備・公開に向けた検討を進めていく方針です。

Q 令和7年3月定例会での答弁で、連合長は現行の広域計画で「デジタル化を推進する関西」を将来像に掲げていると述べた。現在策定中の第6期広域計画（中間案）では将来像から「デジタル化」という表現は消えたものの、「あらゆる分野でデジタル技術・新技術を活用する」とされており、引き続き注力されると受け止めている。一方で、「デジタル化の推進」が「関西からDXを先導する取組の展開」へと表現が変わり、取組の段階が進んだ印象を受ける。そこで、第6期広域計画の終期である令和12年を見据えた、デジタル化推進の中長期的な展望は。

A 三日月広域連合長　第5期広域計画で追加した「デジタル化の推進」について、官民研究会の実証事業や「関西デジタル・マンス」、「KANSAI DX AWARD」などを通じ、構成団体や産学官連携で取組を進めてきました。第6期広域計画（令和8年度～）では、これまでの成果を生かし、AIをはじめとするデジタル・新技術の徹底活用を促進することで、安全・安心で持続可能な関西の実現に一層取り組む方針です。

「いのち輝く未来社会のデザイン」の精神を継承するレガシーについて

Q 大阪・関西万博は約2900万人が来場し、関西広域連合は関西パビリオンの設置や各地の魅力発信など多様な取組を行った。中でも、万博に向けて開始した「いのち育む〝水〟のつながりプロジェクト」では、琵琶湖・淀川流域の人々と連携し、シンポジウムや清掃活動を実施し、最終イベントでは高校生同士の交流が深まった。こうした若い世代の活動をレガシーとして、今後どのように成果を生かしていくのか。

A 三日月広域連合長　関西広域連合は、水を健全な形で次世代に引き継ぐことを目的に「いのち育む〝水〟のつながりプロジェクト」に取組み、万博会期中には関西パビリオンでイベントを開催し、水のつながりへの理解促進と分野・地域を超えた連携の基盤を築きました。クロージングイベントでは流域ごとに活動する高校生が交流し、相互理解と連携の重要性を確認しています。今後はシンポジウム等を通じて機運を高め、人のつながりを生かした上下流の学生交流を促進し、将来的に自発的で継続的な上下流連携が行われる関西を目指すとしています。

Q 民間でも「水のつながり」を軸に万博レガシーを継承しようとする動きが生まれており、琵琶湖源流から瀬戸内までを「アート&バイオリージョン」として捉える構想や、文化を通じた国際交流・都市魅力創出の提言が進められている。短期的な成果だけでなく、数十年先を見据えた関西の都市レガシーが重要であるとの認識のもと、水の流れが集う夢洲で開催された万博について、関西広域連合として長期的にどのようなレガシーを継承していくのか。

A 三日月広域連合長　関西広域連合は、関西パビリオンでの万博の取組を一過性に終わらせないため、展示物や人的ネットワーク、運営ノウハウといった有形・無形の資産を、閉幕後もレガシーとして持続的に活用していくことに努めます。具体的には、展示物の一部を各地に移設・再利用し、持続可能性に配慮するとともに、パビリオンの記憶を次世代へ継承する、鳥取県の砂丘展示をきっかけに結成された「サンド・アライアンス」による国際的ネットワークを、今後の国際交流の促進つながることが期待されています。さらに、府県が一体となって関西の魅力を発信したパビリオン運営の経験を生かすため、イベントや展示内容をまとめた記録集を作成し、万博の成果や精神を将来に伝えることで、万博を契機に得られた経験と知見を残し、長らく生かされるよう、レガシー継承の取組に注力していきます。

Q 甲賀市は鈴鹿山脈の源流に位置し、水が琵琶湖から淀川を経て全国へつながっていく地域である。琵琶湖に面していないため水とのつながりを実感しにくいが、万博を通じて高校生を中心にその体験ができたことは大きな意義がある。夢洲が廃棄物埋立地から「静けさの森」として再生されたことや、万博と大阪関西国際芸術祭が同時開催されたことも重要なレガシーである。今後はアートを通じて、水や命、自然環境、廃棄物、森の在り方を世界に発信していく可能性について。

三日月広域連合長　山の一滴の水が森や川、里、海へとつながる自然の循環や、木や森の大切さをアートで表現する取組は重要で大きな可能性があります。大阪・関西万博で得られたこうしたつながりを生かし、関西広域連合として今後のイベントや企画に積極的かつ主体的に関わっていけるように努力します。

滋賀県議会ナビ ～若者が滋賀の未来をつくる～

県立甲西高校を訪問しました!!

滋賀県議会では、若者の議会への興味と関心を深めるための取組の一つとして、議員が学校へ出向いて講義や意見交換等を行う「滋賀県議会ナビ～若者が滋賀の未来をつくる～」を行っています。

令和7年11月21日㈮、湖南市の滋賀県立甲西高等学校にて実施された滋賀県議会ナビに、私を含め6名の県議が参加しました。2年生の1クラス約40名が対象です。

①議員自己紹介

各議員が議員を志したきっかけ等の紹介を行いました。

②議会の仕組み・議員の仕事説明

議員から議会の仕組み・議員の仕事について説明しました。

③生徒から政策の説明

生徒から班ごとの政策について説明がありました。

《1班》AIを利用した教育の推進
《2班》子どもがいても働きやすい環境をつくる（育休制度の見直し、ベビーシッター制度の普及）
《3班》東京都板橋区の「すくすくカード」を参考にした「のびのびカード」の導入
《4班》草津線の運行本数の増加
《5班》甲西への店舗の誘致
《6班》スマート農業の推進

④生徒との意見交換

議員が各班に分かれて意見交換を行いました。私は1班担当で、AIの活用が目的ではなく、あくまで手段として学びの質を高めることが重要といった視点で意見を交わしました。

⑤生徒から修正点等発表

各班から意見交換の中で得た気付き、修正点等が発表されました。

⑥議員からの講評、感想

⑦アンケート（抜粋）

◎議員さんと話す機会がほとんどない中で少し怖いイメージなどがありましたが、みなさんフレンドリーで話しやすくまた、日本のため滋賀県のために日々頑張ってくださっていると改めて感じることができました。
◎自分たちでは考えられていなかったことが分かったし、実際に実行するには、多くの問題があるのでそれも考えられるようにしたいと思いました。
◎今回自分たちが考えたことは議員の人たちに任せるだけでなく、自分たちにもできることがあるなら、やっていかないといけないと思った。なので、日常生活からもっと政治に目を向けて今はどのような取組が行われているか知っていき、積極的に政治に参加していきたい。

若者の柔軟な発想と行動力に触れ、未来の滋賀に大きな希望を感じる機会となりました。

田中松太郎の日々の活動はSNS等で配信しています！
公式ホームページ▶
Facebook▶
Instagram▶
検索 田中松太郎
http://matsutaro.jp/